

ペチュニア イージーウェーブ™・シリーズ

学名: *P. x hybrida*

種子粒数の目安: 約1,200粒(ペレット種子)/グラム

プラグ生産ステージ

【スプレディングの性質上の違いは苗を移植した後から顕著になります。イージーウェーブに関しては、プラグ生産の段階では通常のペチュニア苗と同様の管理方法が可能です】

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は中庸(0.75mmhos/cm(1:2))を維持する

播種

イージーウェーブでは播種時、覆土をしない。播種後は、ペレットを完全に融解させるため十分に水を含ませる

ステージ 1 - 発芽には約4日を要する

地温: 22 から 24°C

光条件: 光は発芽に有効である。とくにバーガンディスターやピンク、プラムベインなどは有利な条件としてはたらく

水分: ステージ 1 では最良の発芽条件を整えるため、水分レベルを湿潤(level 5)で維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度 100%を維持

ステージ 2

地温: 20 から 24°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 根が培地を十分に浸透するよう、少しずつ水分を減らしてやや湿潤の状態(level4)を維持する

肥料: リン酸が低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm 以下(N)、EC は 0.7 mS/cm 以下)で開始する

ステージ 3

地温: 18 から 21°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 2 よりもドライな状態に移し、次の水やりまでに培地の表面がライトブラウンになるような、level 2(やや乾燥)の状態におく。湿潤と乾燥、つまり level 4 と 2 を循環的に繰り返すようにする

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。EC は 0.7 から 1.2mS/cm(1:2)を維持

矮化剤: 矮化剤は不要

肥料

肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N)、EC は 0.7-1.2mS/cm)に上げる。もし生育が遅いようであれば、2 回に一度アンモニア態と硝酸態のバランスのとれた肥料を与える。いずれの場合も、培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は(1.0 から 1.5 mS/cm(1:2))を維持

PGR(矮化剤)

プラグ苗の生長制御については、まずは外部条件や肥料管理、またかん水などから方法を講じて、化学的な矮化処理剤を用いるのは、必要性を見ながらその次の手段とすることが望ましい。アンモニア態窒素の利用を最小限にすることで、苗の徒長を裂けることが可能である。また DIF(昼間と夜間の温度差)の利用によって丈の伸張を抑制することも可能である。矮化剤を使用する場合は、事前に試験を行うようにする

アメリカ仕様: B-ナイン 5,000ppm を 1,2 回ほど散布する。最初はプラグ苗の段階で、本葉 2,3 枚をめどに行なう。さらにそれから 7 日おいて 2 回目を散布する。この処理で、苗が生長した後の地際株が充実する効果もある

北ヨーロッパ仕様: B-ナイン 1,250ppm を必要に応じて 1-3 回ほど散布する試験を行った結果、効果が見られた

ステージ 4

地温: 16 から 18°C

光条件: 温度条件が適当であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

カットパック/9cm ポット: 1 本植え

10.5cm(10cm 前後)ポット: 1 本植え

15cm ポット: 1 から 3 本植え

25cm(バスケット等): 3 から 4 本植え

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.5 から 6.2 が適正、培地の初期の養分量は中庸とする

温度

昼間温度: 16 から 24°C

夜間温度: 14 から 18°C

イージーウェーブは、低温であっても概ね 2°C くらいまでは耐性をもっています。ただし、適切な日長条件のもとでは、到花期間の早晩は生産時の温度の平均値に影響を受けることを憶えておきましょう。イージーウェーブは、低温の条件では開花までより長い時間を要します

光条件

温度が適正に保持されている間は、できるだけ高く維持する

肥料

イージーウェーブでは、通常のペチュニアの生産で示されているよりも多くの肥料を必要とします。有効な手段として、かん水と交互に、リン酸の少ない硝酸態の肥料をレート4の濃度(225から300ppm(N)、ECが1.5から2.0 mS/cm)で与えます。株に多少勢いをつけたい場合は、必要に応じて、アンモニア態と硝酸態が組み合わされたバランスタイプの肥料を与えます。その際には、用土(培地)のpHが5.5から6.2に範囲にあることを確認します

レート4の施肥の代わりに、レート3(175から225ppm(N)、ECが1.2から1.5 mS/cm)の肥料を与える頻度を増やす方法も可能です。その場合も、上記のEC、およびpHが適正な範囲にあることを確認しましょう

矮化処理剤

【北アメリカの環境における仕様】苗の移植後7日ほどしてからB-ナイン 5,000ppmの散布を開始。他にも、条件によってはボンザイ3から5ppmをかん注で用いることも可能。ボンザイの追加的投与として、必要に応じて、出荷前に株の形をかためるため30ppmを軽く散布することも可能であるが、強くなりすぎないように注意が必要

【北ヨーロッパの環境における仕様】苗の移植後7日ほどしてからB-ナイン 5,000ppmの散布を開始。他にも、条件によってはボンザイ6から8ppmをかん注で用いることも可能。ボンザイの追加的投与として、必要に応じて、出荷前に株の形をかためるため30ppmを軽く散布することも可能であるが、強くなりすぎないように注意が必要

【品種による仕様】ハンギングバスケットに仕立てる場合、ブラムペインは1回多くボンザイ30ppmを散布する

注意点: 矮化剤の使用に関しては、自身の施設に用いる最適な濃度や倍率を決めるにあたって、事前に試験を行うことが望ましい

日長時間との関係

ウェーブペチュニア(全シリーズ、全品種)の日長時間と開花の関係は栽培される場所の緯度や作型によって異なる。補光等の必要性の有無はこの資料の4ページにある表を参照

イージーウェーブは、他のシリーズよりも比較的、日長に影響を受けにくいシリーズです。ほとんどの品種では、10時間半の日長条件で問題なく開花することが確認されています。到花期間は、12時間以上の長日条件では通常よりも短くなります

イージーウェーブを春先の早い時期に、短日条件のもとで出荷する場合は、移植直後からの補光処理によって、生産期間の調整が可能です。この場合、明期延長または暗期中断のどちらの方法を用いることが可能です

平均的な生産期間

播種から移植まで(288-406穴トレイ): 4から6週

移植から出荷適期まで: 5から7週

播種から出荷まで

コンテナ サイズ	定植本数 /ポット	春生産 (春出荷)	春生産 (初夏出荷)
カットパック/ 9cmポット	1株	10-12週	8-10週
10cmポット (10.5cmポット)	1株	10-12週	8-10週
15cmポット	2-3株	10-12週	8-10週
25cmポット・ バスケット	3-4株	10-13週	8-11週

予想される病例、虫害等

適正な管理のもと、いわゆるIPM(総合的病虫害管理)が行なわれているのであれば、病気や虫害によるとくに大きな問題は少ないと考えられる

ホームガーデナーへのアドバイス

イージーウェーブを定植、あるいは配置する場合は、最低でも6時間の直射日光があたる条件を選びます。健康な株と一定の開花を維持するためには、とくにプランターへ植え込んだ後は、市販されている汎用型の肥料を1週間ないし10日に一度与えましょう。肥料の濃度や希釈などについては、肥料のパッケージラベルなどを参考にしましょう

花壇に植え込む場合のスペーシング(株間)は30cmとします。株は生長して、最大で直径が75から90cm、丈が20から30cmにまで達します

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

